



アルゼ株式会社に勤務するあるぜくんは、好奇心旺盛で向上心も人一倍。そしてもっと多くの人にアルゼのことを知ってもらいたいと頑張っています。



日本の文化に触れる

先日、あるぜくんは、「國華」創刊120周年・朝日新聞130周年を記念して開催されている「対決—巨匠たちの日本美術」を観てきた。この展覧会では、24人の作家の作品を、作家同士の関係性に着目して2人ずつの「対決」という形で展示している。

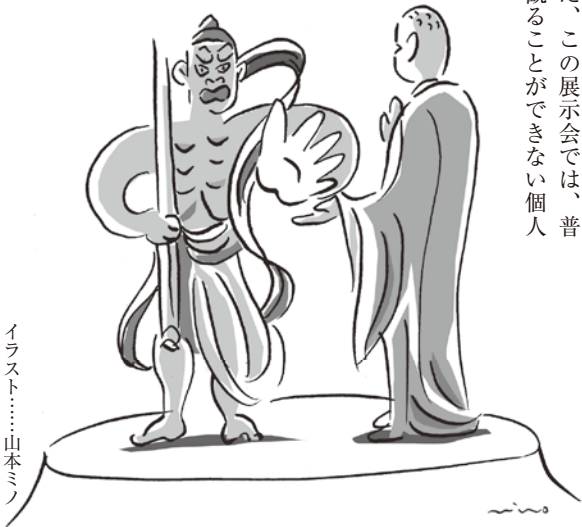
入り口を入るとまず2体の地藏菩薩が展示されている。これは運慶VS快慶の対決だ。この2人は康慶を師とする兄弟弟子で、共作で奈良東大寺の金剛力士像を作った。だが、作風は対照的でライバルでもあった。一言で言えば、運慶は「動」、快慶は「静」。運慶の地藏菩薩は、男らしい顔立ちや衣の模様一本一本が堂々としていて力強い迫力がある。一方、快慶の地藏菩薩は、顔立ちも端正で金泥塗りの衣は華やかで繊細な印象を与える。この2つの作品を並べて自分の目で観て感じる事ができる。写真では分かりづらい玉眼（鎌倉時代の特徴で木彫像の目玉に水晶を使った技法）も問

近で観ることができるのだ。

他にも、実際にライバルだった狩野永徳VS長谷川等伯の「ライバル対決」、水墨画で有名な雪舟とその雪舟に私淑した雪村の「水墨画対決」など、全12組の対決が繰り広げられている。

この「対決」といった形の展示は、それぞれの関係性を興味深く紹介している。今まで何となく観てきたものを、対決する作者の関係性を知り、比べて観ることによって、触れやすく、分かりやすくしている。

また、この展示会では、普段は観ることができない個人



イラスト……山本ミウ

蔵の作品や各美術館に所蔵されている作品が一堂に集まっている。これらの作品を間近で観ることができる機会はなかなかないだろう。実物大で観る屏風絵や仏像の迫力・立体感、間近で観る細かい線や点へのこだわり・様々な技法、自分の目で直接観る色彩の鮮やかさ。これらは写真では感じることはできない。過去のものとして置き忘れてきた日本の文化を見直すことによって、自分が日本人であることの新たな発見を感じたあるぜくんだった。

(一部非対応機種有り)

最新機種情報はアルゼ王国 **サイトへアクセス!!**



懐かしのヒーロー登場!!



© 2007 永井豪・石川真 / ダイナミック企画

月額情報料 315円(税込)
※別途/バケット通信料がかかります。

© 2008 ARUZE MEDIA NET CORP. © 2008 ARUZE CORP.
※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

アルゼ株式会社